

## 大規模なポートフォリオ変更が奏功(地球視点)

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)  
追加型投信／国内／株式

2022年6月23日

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)は、格付投資情報センターの選定による「R&Iファンド大賞2022」で下記のように受賞いたしました。当ファンドをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

国内株式グロースカテゴリ

投資信託部門:	最優秀ファンド賞
投資信託10年部門:	最優秀ファンド賞

R & I ファンド大賞 2022  
投資信託部門  
『最優秀ファンド賞』



R & I ファンド大賞 2022  
投資信託10年部門  
『最優秀ファンド賞』



当レポートでは、これまでの運用を振り返り、当ファンドの運用についての考え方および今後の市場見通しと運用方針についてご案内いたします。

「R&Iファンド大賞」は、格付投資情報センター(R & I)が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 1. 第23期の基準価額の動き

第22期末(2021年12月15日)に20,947円であった基準価額は、第23期末(2022年6月15日)には、**18,533円**となりました。

第23期末に**900円の収益分配**を(1万口当たり、税引前)行いましたので、分配金支払いを考慮した実質的な基準価額は、第22期末から**1,514円下落**しました。

実質的な基準価額の騰落率は**▲7.2%**となり、配当を含めたTOPIXのリターン**▲5.2%**を2.0%下回りました。

**図表1. 基準価額・純資産総額と分配金の推移**

基準価額	18,533 円
純資産総額	61.3 億円

※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

最近5期の分配金の推移		
第19期	2020/6/15	500 円
第20期	2020/12/15	1,000 円
第21期	2021/6/15	1,100 円
第22期	2021/12/15	1,200 円
第23期	2022/6/15	900 円
設定来合計		14,200 円

※分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

## 2. 設定来のパフォーマンス

設定来、第23期末までの**トータルリターン(分配金再投資基準価額の騰落率)**は**321.7%**となり、同期間のTOPIXの配当を含めたリターン164.5%の約2倍のリターンとなっています(図表2)。

設定来の分配金再投資基準価額の推移(図表3)をご覧くださいと、停滞・下落した時期をはさみながらも、大きく上昇した時期もあり、長い目で見れば着実に水準を切り上げてきたことがお分かりいただけると思います。

これは当ファンドの値動きの特徴だと考えております。**短期間の値動きに一喜一憂せず、長期的な目線で保有し続けることで、結果として高いリターンを享受することができたファンド**だと言えると考えております。

**図表2. 期間ごとのパフォーマンス**

	ファンド	TOPIX	差
第23期	-7.2%	-5.2%	-2.1%
過去1年	0.6%	-3.8%	4.4%
過去3年	71.9%	29.4%	42.5%
過去5年	78.3%	31.1%	47.1%
設定来	321.7%	164.5%	157.2%
(年率)	13.4%	8.9%	4.5%

(注) 「ファンド」の数値は、設定来の分配金再投資基準価額を基に計算しています。TOPIXのリターンは配当込みの数値です。「年率」は、それぞれ設定来の数値を年率換算した数値です。

**図表3. 設定来の分配金再投資基準価額とTOPIX(配当込み)の推移**


※分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。  
 ※分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものとして計算した基準価額です。  
 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

### 3. 第23期の基準価額の変動に寄与した銘柄

#### プラス寄与銘柄

①グリーン・テクノロジー分野で組み入れた**脱炭素・天然ガス関連銘柄群**(三菱重工業、INPEX、日揮ホールディングス、大阪チタニウムテクノロジーズ、IHI)、②デジタル・テクノロジー分野で組み入れた**デジタル通信インフラ**を担う**通信キャリア銘柄**(日本電信電話、KDDI)、③ヘルスケア・テクノロジー分野で組み入れた**大手製薬株**(第一三共、武田薬品工業)などがプラス寄与上位銘柄となりました。

#### マイナス影響銘柄

主に、昨年までの株価上昇率が高く、今年に入って大きな株価調整に見舞われた銘柄などが、マイナス影響上位銘柄となりました。この10銘柄のうち9銘柄は当期中に売却しております。

#### プラス寄与上位10銘柄

銘柄名	分野
1 三菱重工業	グリーン
2 INPEX	グリーン
3 フィールズ	デジタル
4 日本電信電話	デジタル
5 KDDI	デジタル
6 日揮ホールディングス	グリーン
7 大阪チタニウムテクノロジーズ	グリーン
8 第一三共	ヘルスケア
9 IHI	グリーン
10 武田薬品工業	ヘルスケア

#### マイナス影響上位10銘柄

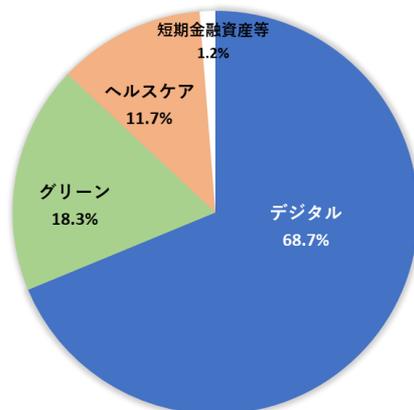
銘柄名	分野
1 ウェストホールディングス	グリーン
2 KADOKAWA	デジタル
3 デクセリアルズ	デジタル
4 野村総合研究所	デジタル
5 ソニーグループ	デジタル
6 三井ハイテック	グリーン
7 イビデン	デジタル
8 JSR	ヘルスケア
9 ジャストシステム	デジタル
10 キーエンス	デジタル

### 4. 第23期中の運用の振り返り

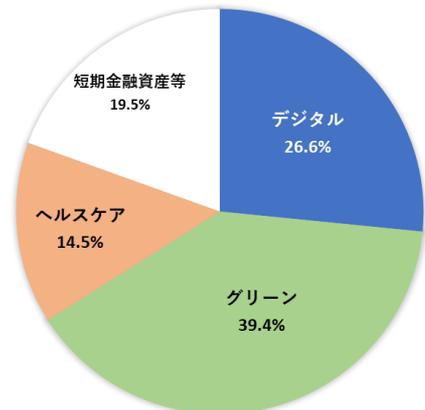
米国の本格的な金融引き締め開始という投資環境の変化を受けて、当期中にポートフォリオの大幅な変更を行いました。金融引き締めを受けて株式市場は不安定化すると考え、**ファンドの株式組入比率を80%台まで引き下げ**ました。

また、デジタル・テクノロジー分野、グリーン・テクノロジー分野、ヘルスケア・テクノロジー分野を中長期的な成長ポテンシャルが高い重点投資分野とする考えは変えておりませんが、需給面で売り圧力が強いと考えられる**デジタル・テクノロジー分野の構成比を大幅に引き下げ**た一方、**グリーン・テクノロジー分野とヘルスケア・テクノロジー分野の構成比を引き上げ**ました。加えて、**各分野で投資している銘柄を大幅に変更**しました。これについては具体的に次ページでご説明いたします。

第22期末(2021年12月15日)



第23期末(2022年6月15日)



※当ファンドの純資産総額に対する比率です。  
※比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。  
※個別銘柄の各分野への区分は当ファンドの運用者が独自の視点で行っているものであり、客観的なデータ・基準に基づくものではありません。

#### ＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)  
追加型投信/国内/株式

デジタル・テクノロジー分野

デジタル・テクノロジー分野における上位組入銘柄は、右表のように入れ替わりました。第23期末時点では、ディフェンシブ性の高い通信キャリア株を高位に組み入れています。

第22期末(2021年12月15日)

銘柄名	
1	KADOKAWA
2	デクセリアルズ
3	キーエンス
4	ソニーグループ
5	イビデン

第23期末(2022年6月15日)

銘柄名	
1	日本電信電話
2	KDDI
3	フューチャー
4	ソニーグループ
5	フジクラ

グリーン・テクノロジー分野

グリーン・テクノロジー分野における上位組入銘柄も、右表のように入れ替わりました。EV関連株を売却し、エネルギー関連株や脱炭素技術を有する重工業株を組み入れました。

第22期末(2021年12月15日)

銘柄名	
1	トヨタ自動車
2	ウエストホールディングス
3	デンソー
4	日本電産
5	富士電機

第23期末(2022年6月15日)

銘柄名	
1	三菱重工業
2	大阪チタニウムテクノロジーズ
3	INPEX
4	ENEOSホールディングス
5	IHI

ヘルスケア・テクノロジー分野

ヘルスケア・テクノロジー分野における上位組入銘柄は、右表のように入れ替わりました。高い競争力を有すると判断している医療機器2社(オリンパス、テルモ)へは継続的に投資しています。

第22期末(2021年12月15日)

銘柄名	
1	第一三共
2	オリンパス
3	テルモ
4	富士フイルムホールディングス
5	JMDC

第23期末(2022年6月15日)

銘柄名	
1	武田薬品工業
2	塩野義製薬
3	ヤーマン
4	オリンパス
5	テルモ

5. 大規模なポートフォリオ変更の効果

大規模なポートフォリオ変更を行ったのは今年の1月です。当期のパフォーマンスを1月末までと、それ以降に分解して計算した結果が下の表です。1月末までは、TOPIX(配当込み)のリターン▲4.3%に対して、ファンドが▲10.7%となり、市場平均に大きく劣後するパフォーマンスとなりました。大規模なポートフォリオ変更が終了した2月以降当期末までのリターンを見ますと、TOPIX(配当込み)のリターン▲0.9%に対して、ファンドは+3.9%となり、市場平均を上回る結果となりました。このことから、ポートフォリオ変更の効果が出ているものと受け止めております。

図表4. 第23期 当ファンドおよびTOPIX(配当込み)のパフォーマンス検証

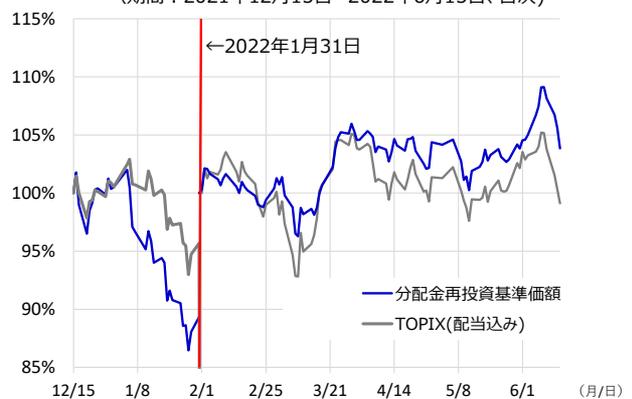
(期間：2021年12月15日～2022年6月15日、日次)

期間	ファンド	TOPIX (配当込み)	差
2021/12/15～2022/1/31	-10.7%	-4.3%	-6.4%
2022/1/31～2022/6/15	3.9%	-0.9%	4.7%

(注) 各期間の数値は、それぞれ2021/12/15から2022/1/31までの騰落率と、2022/1/31から2022/6/15までの騰落率を基にしています。ファンドは当ファンドの分配金再投資基準価額から算出しています。騰落率は小数点第2位を四捨五入していますのでその差と一致しない場合があります。分配金再投資基準価額は2021/12/15を起点に算出しています。

※右図は、当ファンドの分配金再投資基準価額とTOPIX(配当込み)について、2021年12月15日と2022年1月31日をそれぞれ起点として騰落率の推移をグラフ化したもの。

※分配金再投資基準価額とは、分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。



(出所) Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社で作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 6. 投資環境見通しと今後の運用方針

新型コロナウイルスとの戦いが峠を越えてきた一方で、インフレや安全保障が新たな課題として立ち上がってきました。これらは、景気や経済成長よりも優先すべき政策課題になっていると見られるため、当面の景気や企業業績について楽観的に見ることは難しい状況です。ただ、我々人類は過去何度もインフレや戦争という危機を経験し、それを乗り越えて今日の豊かな社会を作り上げて来ました。そして、一時的な停滞・危機を克服して経済を成長させる原動力になったのが新しいテクノロジーの開発と普及であり、そこにフォーカスして投資を続けることが、長期的なリターンの源泉になると考えております。

引き続き当ファンドでは、テクノロジーに着目し、「富」を生み出すテクノロジー株への投資によって基準価額の上昇を目指してまいります。どんな銘柄が「富」を生み出すのかは、時代によっても投資環境によっても変わります。当面は、世界的な金融引き締めによって株式市場から資金が流出しやすい状況のため、将来の成長を期待して多くの投資家が投資している銘柄には売り圧力が強まりやすいと見ております。つまり、そのような銘柄は、株価の上昇という「富」を生み出しにくい銘柄になっているということです。このため、当面は、多くの投資家が投資してないと思われる銘柄（定量的なデータがあるわけではないため、過去の株価の動きや市場での人気度などから定性的に判断するしかないと考えております）の中から、業績や材料などの面で市場での評価が高まるとの期待が持てる銘柄へ投資し、不安定な投資環境の中で、基準価額の上昇を目指してまいります。

### 運用状況

(作成基準日：2022年6月15日)

ポートフォリオ構成比率	
株式	80.5%
(内国内株式)	(80.5%)
(内先物)	(0.0%)
短期金融商品その他	19.5%
組入銘柄数	28銘柄

※当ファンドの純資産総額に対する比率です。

騰落率	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前	設定来
分配金再投資基準価額	1.57%	5.83%	▲7.23%	0.59%	71.90%	321.74%

※騰落率は、1か月前、3か月前、6か月前、1年前、3年前の各月の応当日および設定日との比較です。  
 ※分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。  
 ※当ファンドは、特定の指数に連動する、または上回る運用を目指していないため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

組入上位10業種	
1 情報・通信業	15.7%
2 電気機器	11.2%
3 機械	9.1%
4 非鉄金属	8.7%
5 医薬品	6.6%
6 精密機器	6.0%
7 輸送用機器	4.6%
8 鉱業	4.1%
9 石油・石炭製品	3.5%
10 建設業	3.1%

※各比率は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

組入上位20銘柄			
1 日本電信電話	6.2%	11 日揮ホールディングス	3.1%
2 三菱工業	6.0%	12 川崎重工業	2.8%
3 KDDI	5.7%	13 ソニーグループ	2.7%
4 大阪チタニウムテクノロジーズ	4.1%	14 フジクラ	2.6%
5 INPEX	4.1%	15 横河電機	2.6%
6 フューチャー	3.8%	16 電源開発	2.3%
7 ENEOSホールディングス	3.5%	17 ヤーマン	2.3%
8 武田薬品工業	3.5%	18 オリックス	2.3%
9 IHI	3.2%	19 オリンパス	2.2%
10 塩野義製薬	3.2%	20 東邦チタニウム	2.0%

(作成：運用本部)

#### ＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

**日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)  
追加型投信／国内／株式**
**日本ニューテクノロジー・オープン(愛称 地球視点)に関する留意事項**
**【岡三アセットマネジメントについて】**

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

**【投資リスク】**

- 投資者の皆様のご投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様にご帰属します。ファンドは、国内の株式等価値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
  - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。
- ※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

**【その他の留意点】**

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
  - 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
  - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
  - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
  - 取引所における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

**【お客様にご負担いただく費用】**

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
  - 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）  
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
  - 換金手数料：ありません。
  - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
    - 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.54%（税抜1.40%）
  - その他費用・手数料
    - 監査費用：純資産総額×年率0.011%（税抜0.01%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産でご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
  - お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
  - 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

## 販売会社

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
あかつき証券株式会社	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
auカブコム証券株式会社	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
JPアセット証券株式会社	関東財務局長(金商)第2410号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○		○	
松井証券株式会社	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
<b>(登録金融機関)</b>					
PayPay銀行株式会社	関東財務局長(登金)第624号	○		○	

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)